

2021年8月3日

株式会社リガク

## リガク、ライフサイエンス向けイメージング機器メーカーの MILabs を買収 グローバルなライフサイエンス事業に本格参入

X線分析機器のトップメーカーである株式会社リガク（本社：東京都昭島市、代表取締役社長：池田俊幸、以下「リガク」）は、ライフサイエンス事業への本格的な取り組みとして MILabs B.V.（本社：Houten, The Netherlands、CEO 兼 CSO：Dr. Frederik Beekman、以下「MILabs」）の全発行済み株式を2021年8月2日に取得しました。今回の全株式取得により、リガクが有する既存 X線事業に MILabs が有する動物向けの PET（Positron Emission Tomography）、SPECT（Single Photon Emission Computed Tomography）、発光・蛍光イメージング、CT（Computed Tomography）装置等の各種マルチモダリティ事業を加えて、グローバルに展開し、ライフサイエンス向けモダリティ事業を拡大してまいります。なお、取得金額等については公表しておりません。

MILabs 社は、2006年に設立され、Dr. Frederik Beekman 氏らが開発した独自のコリメーター技術やデータ収集技術を用いて、複数のトレーサーを同時に画像化する機能を備えた、従来よりも高効率で高精度な SPECT 及び PET 装置を提供してきました。また、X線 CT、PET、SPECT、及び発光・蛍光イメージング装置を自由に組み合わせることができ、顧客のニーズに柔軟かつ低コストで対応できるシステムを開発し、販売してきました。MILabs はこれらのイメージングモダリティの売上をここ数年で急速に伸ばしています。

リガクは、これまでに X線分析機器を中心に 70年の歴史の中で培ったノウハウとテクノロジーで、世界の大学、研究機関、産業界とともに世界の科学技術の進歩、先端技術産業の発展を支える先進的役割を担ってきました。事業領域としては、ナノテクノロジー・新素材分野、資源・エネルギー・環境分野、半導体・電子材料分野、ライフサイエンス分野等に取り組んできました。2021年にカーライル・グループが運用するファンドから出資を受け、成長領域での積極的な事業投資による事業拡大に取り組んでいます。今回の買収では、従来の X線イメージングの事業を基盤としながらも、これまでに取り組んでいなかった放射線イメージングや光学イメージングのモダリティも事業に取り込んで、ライフサイエンス分野の一つであるプレクリニカルイメージング領域の事業強化を図るものです。

プレクリニカルイメージングはライフサイエンス分野においてその重要性は今後ますます増えていくものと考えています。すなわち、ライフサイエンス分野では遺伝子編集などの革新的な手法が開発されていますが、編集した遺伝子が最終的に生体でどのように機能を発揮するのか、どのような影響を与えるのかを個体を用いて検証する必要があるため、プレクリニカルイメージングはこの機能解析に貢献することができます。また、創薬分野では新薬開発において薬の候補物質が生体内でどのような挙動をするのかを観察することが必要で、薬効メカニズムの解明に大きく貢献することが期待できます。

今回の全株式取得により、MILabs がすでに構築している販売ネットワークにリガクが有する欧米やアジアの販売網を生かして営業力を強化していきます。また、リガクのワールドワイドのサービス網を活用することで、より充実したサービスを顧客に届けて参ります。MILabs が有する放射線検出技術やアドオン型のプラットフォームシステムの設計技術、リガクが持つ X 線周りの設計技術を組み合わせて、新たな製品の共同開発も推進していきます。

-MILabs 社の Dr. Frederik Beekman 氏は次のように述べています。

「我々はリガクによる MILabs の全株式取得を大変嬉しく思います。本件により、MILabs の独自製品を世界中に提供しながら開発を加速することで、今まで以上に多くの生物医学研究者、医師、患者にイメージング技術を通じた貢献が可能と考えております。」

-リガク代表取締役社長の池田俊幸は、次のように述べています。

「今回の MILabs の買収では、X 線関連製品を基盤とするリガクとのシナジーも期待でき、ライフサイエンス分野への進出の第一歩として事業を大きく拡大することを期待しています。

MILabs のユニークな製品はプレクリニカルイメージングの領域で大学や病院、製薬会社におけるライフサイエンスの研究を大きく加速することを確信します。

さらに、人口高齢化の中での QOL 向上や新感染症対策などに有効な新検査手法開発や治療薬開発などに必要なこれらの機器システムの提供によって、当社が社会貢献を一層拡大していく端緒としたいと考えております。」

-カーライル・ジャパンの副代表を務める富岡隆臣は次のように述べています。

「今年 3 月にリガクへの出資を完了して以来、僅か 4 か月にもかかわらず、リガクにとって非常に意味のある戦略的買収が実現できたと考えています。

リガクの成長戦略の中で、ライフサイエンス領域における事業拡大が最も重要な領域の一つであり、MILabs をグループに加えられたことは今後の戦略遂行の大きな一歩になったと確信しています。」

リガクではライフサイエンス分野の事業に積極的に参入し、2025 年にはこの分野をコア事業の一つとして育成することを目指します。

\*\*\*

### 株式会社リガクについて

1951年の創業以来、株式会社リガクはX線と熱分析をコア技術に持ち、分析機器と工業用機器の最先端技術を提供してきました。今日、リガク・グループは、国内のみならず、アメリカ・ヨーロッパ・中国を始めとした世界各地の拠点をベースに、汎用X線回折（XRD）、薄膜分析（XRF、XRD、XRR）、蛍光X線分析（TXRF、EDXRF、WDXRF）、小角散乱分析（SAXS）、蛋白・低分子X線結晶構造解析、ラマン分光分析、X線光学素子、半導体検査（TXRF、XRF、XRD、XRR）、X線発生装置、CTスキャン、非破壊検査、熱分析の各分野において先進的な役割を担っています。X線とその周辺技術の膨大な知見を強みとして、お客様との協業関係を築き、学会や産業界を通して、グローバルにパートナーシップ、コミュニケーション、イノベーションを促進してきました。蛋白構造解析、ナノテク開発、汎用X線回折（XRD）、蛍光X線分析（XRF）、材料分析、品質保証を含む多種多様な分野に向けて、統合されたソリューションを今後も引き続き提供してまいります。

詳しくは、[japan.rigaku.com/ja](http://japan.rigaku.com/ja) をご覧ください。

### MILabs 社について

2006年の創業以来、MILabsは、最先端の生体内イメージングデバイスに、新しいPET、SPECT、CT、及び光トモグラフィー技術の開発を提供してきました。MILabsのデバイスは、世界中の大学、CRO、製薬会社に設置されています。MILabsのU-SPECTは、放射性標識トレーサーを用いた撮像において0.25mm未満の解像度の画像を提供します。MILabsのVECTorは、SPECTイメージングと同時にサブmmの分解能でPETイメージングを可能にします。2015年、MILabsは、マルチモーダルシステムの統合モジュールとして利用可能な優れたパフォーマンスを備えたマイクロCTを発売しました。最近、MILabsは自動化されたさまざまな光学2D及び3Dモジュールを発売しました。さらに、比類のない性能を備え、臨床適用も視野に入れたSPECTスキャナー（G-SPECT）が現在開発中です。MILabsのシングル及びマルチモーダルシステムは、15を超える異なる基本構成をベースに研究者のアプリケーションニーズに最適な構成を構築することができ、卓越したパフォーマンスと費用対効果を提供します。スタンドアロンユニットとして提供される場合でも、マルチモーダル構成で提供される場合でも、MILabsは、画質と生体内イメージング機能の面でパフォーマンスの限界を押し上げています。MILabsシステムを使用したイメージングは、非常に効率的なワークフローを保証するために、シンプルで直感的でユーザーフレンドリーな操作によってガイドされます。

詳しくは、[www.milabs.com](http://www.milabs.com) をご覧ください。

### 報道・出版関係のお問い合わせ先：

株式会社リガク

営業本部広報宣伝課

内匠 優理香

電話番号： 042-545-8190

Email： [info@rigaku.co.jp](mailto:info@rigaku.co.jp)